

■2024年度 日本活断層学会賞

【受賞団体】熊本地震・平田震災遺構保存会

【選考理由】

熊本県益城町平田地区は、2016年熊本地震を引き起こした布田川断層のほぼ直上にあり、町内で最も多くの犠牲者を出した地区の一つである。平田地区には、地表地震断層により右横ずれ変位を受けたフェンスや消防小屋、地表地震断層で割かれた桜の木、累積的な断層変位を示す河谷の屈曲、地層の変位が観察できる断層露頭が狭い範囲に集中して存在し、「熊本地震・平田震災遺構保存会」によって震災遺構として保存されている。「熊本地震・平田震災遺構保存会」は、地震発生の一年後に発足した「平田まちづくり協議会発足準備会」のメンバーであった当時の3名の区長が中心となり、平田地区で実施されたトレンチ調査後の2020年に開催した「地域が残した震災遺構シンポジウム」を契機に、2021年に発足したものである。本会は、会員は11名、特別会員（地元地権者・他1名）4名からなる有志の団体組織である。

本会の取り組みの特徴は、上記の震災遺構や、平田地区で実施されたトレンチ壁面の剥ぎ取り資料の保存と活用を、地域住民が主体的に行っていることである。日常的な活動として「平田・学びのプログラム」を立ち上げ、コロナ禍を乗り越えて、町内の小学校の児童、県外からの中学校・高等学校の修学旅行生を含め、過去3年間で1,300人以上の見学者を受け入れてきた。見学依頼があれば、事前に観察地点の除草作業などの整備を行った上で、現地での解説を行っている。また、多くの人を対象とした分かりやすいホームページ（<https://hiratayanagamizu.com>）を開設し、観察地点をまとめた簡潔なパンフレットを作成し、来訪者に備えている。

布田川断層沿いの地震の痕跡の多くが消滅する中であって、ほぼ地震当時のままに保存されていることから科学的にも防災教育の場としても極めて貴重な場所となっており、活断層の地形・地質学的な特徴や、活断層がもたらす脅威を、来訪者が身近に観察・理解することができるフィールドミュージアムとして意義は大きい。さらに被災者自身が中心となって次世代に震災の実態を伝えるために、地道な活動を継続的に行っており、地域住民による自発的な震災遺構保存活用のモデルとして高く評価される。

以上の理由により、一般社団法人日本活断層学会の2024年度学会賞を授与するものである。